ひたちの文化

2 エッセイ(117) 江口 勇さん
3 日立市文化少年団ご紹介(12)
3 日々を詠む(111) 短歌 石井 まさ子さん
4 My 仕事(136) Music & Little Bar NEON 庄司 典正さん
ふるさと探訪パートⅡ(90) 5
郷土の歴史との出会い④ 綿引 逸雄さん 6
パンポンを世界へ(新) 塙 信幸さん 7
多賀市民会館開館20周年を迎えて 8

「桜に舞う日立風流物」

撮 影 者：滑川 浩康さん（本宮町在住）
撮影場所：平和通り

春は、遠い日の記憶を静かに呼び覚ます季節である。平和通りの桜が空を覆うように咲き満ち、淡紅の花びらがやわらかな風に舞うころ、町は一年でいちばん穏やかな光に包まれる。その桜の下に堂々と姿を現すのが、幾世代にもわたり受け継がれてきた郷土の至宝、日立風流物である。

精緻を極めた彫刻、丹念に重ねられた彩色、細部にまで心を尽くした意匠の数々。その一つひとつに、この町で生き、祭りを支え続けてきた人々の願いと誇りが刻まれている。華やかでありながら軽やかに流されることのない重みがあり、満開の桜を背にしたその姿は、春の明るさの中にあってなお、静かな威厳を湛えている。

幼いころ、家族に手を引かれてこの通りに立ち、山車を見上げた日のことを覚えている人も多いだろう。人波の向こうにきらめいていた装飾の色、胸を高鳴らせた祭りの囃子の響き。やがて自らが親となり、今度は子や孫の手を引いて同じ景色を見上げる。歳月は流れ、人は年を重ねても、桜の色と風流物の姿は変わらず、春が来ればここにある。その変わらなさが、どれほど人の心を支えてきたことだろう。

そして今年五月には、七年に一度の神峰大祭礼が執り行われる。町をあげて迎える節目の年である。長い準備の時間と多くの人々の思いが重なり、風流物はひときわ晴れやかな姿で町を巡るだろう。幾度もこの祭りを見守ってきた人にとっても、新たに出会う人にとっても、それは忘れがたい一日となるに違いない。

桜に始まる春の記憶は、やがて祭りの熱気へと受け継がれ、世代を越えて語り継がれていく。桜はやがて散り、賑わいも静まる。しかし胸に刻まれた光景は色あせない。花びらの舞う空の下で見上げた風流物の姿は、町の歩みそのものとして、これからも私たちの心に静かに生き続けていく。

エッセイ ⑰

小平会館の思い出

江口　勇

江口　勇（えぐち　いさむ）

日立市生まれ
(株)日立製作所・日立研究所に入社
日立会軽音楽部に所属し、文化活動を行う
（ハワイアンバンド～ジャズバンドへ）
現在、茨城ビッグバンドジャズ連盟副会長
ひたちBig Bandフェスティバル実行委員
会代表幹事

【日立製作所・小平会館】

日立市民会館が完成する5年前に建設された日立製作所・小平会館は老朽化や所持管理者である工場（現在は事業所）の事情などにより残念ながら2016年に解体されました。中高年の市民が子供のころ映画やコンサートに行った思い出があると思います。それらの思い出と共にこの小平会館の存在を記憶にとどめるために、筆者の個人的な記憶と思いを込めて記します。

在りし日の小平会館

建設当時のパンフレットには〝小平会館は、日立製作所創業社長・小平浪平の遺徳を偲ぶと共に茨城地区従業員をはじめ日立地区の文化向上をはかるため日立製作所創業50周年を記念して建設されたものです。（以下省略）〟

「規模」は、〝鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、建坪738・6坪（2437・26㎡）、収容人員1200人（補助椅子124席含む）〟とあり、当時最新鋭の会館でした。

特筆すべきはピアノです。パンフレットには簡単に「ベーゼンドルファー平型、97鍵」とだけありますが、このピアノは、通常88鍵のところ、低音部を9鍵拡張して97鍵の完全8オクターブのピアノです。通常は黒い板でふたをして目に入らないような仕掛けがあります。

オーストリアで作られた290インペリアルというベーゼンドルファー最大のモデルです。

日立で初めての本格的な音楽ホールには世界最高峰のものをと、思い入れがあったようでした。現在の価格は5000万円以上で、当時はおそらく300万円を超えるくらいで、従業員の寄付を募って購入するということでした。（現在は日立総合病院のロビーに保管展示）

一般にはあまり関心が向けられなかったことをひとつ。

それは小平会館の正面ロビーの壁が美術作品なのです。デザイン化された「日立」という文字とその右側には小平浪平翁の胸像の彫刻が嵌められています。この作品は芸術家の松村外次郎という彫刻家の作品です。（作品が他にも日立にあり）

上：西陣織の緞帳
下：ホールロビー

上：ロビー壁面　松村作品の説明
下：小平　波平（松村外次郎作）

【イベント、催し物】

ソフトについて記憶をたどって記します。こけら落しは1960年に武原はん（日本舞踊家）、等々純日本芸術芸能の公演があり、1961年に入って安川加壽子（ピアノ）の他、藤沢嵐子、石井好子などのタンゴやシャンソンのコンサートもありました。

この年の特筆すべきはレナード・バーンスタイン指揮のニューヨークフィルのコンサートです。大所帯の海外オーケストラをどう迎え入れたのか、大きな楽屋がなかったので大変だったと思います。

文化の殿堂ということで、このころ盛んだった社内（旧日立工場）の文体組織の日立会の文化部門には沢山の部が活動していました。日立交響楽団（H響）、コーラス部、軽音楽部、民謡部等々。自分たちの文化施設ですから練習の時には上履きスリッパに履き替えての利用に抵抗もなく、むしろ当然の様な感覚でした。それはなによりもこんな立派なホールで練習、演奏できるという喜びが大きかったからです。建設後40年過ぎた時でも筆者が様々なホールでバンド演奏の体験をしたが小平会館のホールより生の音がいいと思ったホールはありません。それはおそらくホール内の壁や天井が全て無垢の木貼りのためかと思っています。反響、残響が多すぎずに自然な音になっているのです。

筆者が小平会館に赴任したのは1990年で大イベントの春の祭典の第14回から10回ほど担当しました。

文化施設はそもそも稼ぐという概念はないため、企業の持ち物の場合は本業の業績が悪くなると維持するのも大変でした。創業100周年で大改修という話も出ましたが大きな予算が必要ということで立ち消えになりました。多くの市民の心に今尚生き続ける小平会館。そこで仕事をすることができたのは私にとって幸甚の至りでした。

解体を見守る桜

さまざまな文化に触れよう！

日立市文化少年団ご紹介 ⑫

日立市文化少年団をご存じでしょうか？日立市では現在25の文化少年団がさまざまな分野で文化活動に取り組んでいます。どの団体も幼少期から多様な文化に触れ、日本の伝統文化や新しい生活文化を学ばせることを目的としています。また、次世代への文化の継承という意味でも文化少年団は大切な役割を担っています。毎号2団体ずつ、本誌面で紹介していきます。

ひたちこどもエコクラブ

かみすわ山荘で行った「自然観察会」

ひたちこどもエコクラブは、子どもたちが環境活動を通して、豊かな自然を未来へつなぐ力を育むことを目的に、2020年度にスタートしました。月に1回程度、昆虫や植物の自然観察会、環境関連施設の見学、専門家による講座や実験などを実施しています。学校ではなかなか体験できない〝教科書を超えた学び〟が魅力です。お友達同士での参加も大歓迎。活動の様子はInstagramで発信していますので、ぜひご覧ください。

エコな調理について学んだ「エコ・クッキング」
※「エコ・クッキング」は東京ガス株式会社の登録商標です。

ひたちこどもエコクラブの案内

活動日・時間：月1回土曜日または日曜日（6月から3月まで）
※活動内容によって変更になる場合があります。
活動場所：活動によって異なります。（市外での活動は、日立市役所に集合し、バスに乗って向かいます。）
入団条件：小学4年生から中学3年生までの市内にお住まいの方、市内の学校に通学されている方
※対象年齢外であっても兄弟での入会については御相談下さい。
設立年：令和2年（2020年）
会費（参加費）：無料※活動によって参加費を徴収することがあります。
申込方法：市HPリンクまたはお電話でお申込み下さい。
申込先と問合せ先：環境を創る日立市民会議事務局（日立市市民生活環境部環境推進課内）
〒317－8601 助川町1－1－1 日立市役所2階山側　TEL：22－3111（内線747）
FAX：24－5301　Eメール：kankyo@city.hitachi.lg.jp

ひたちこどもエコクラブ
Instagram始めました

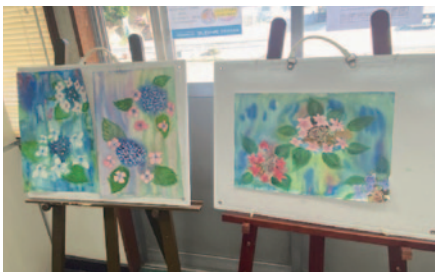
絵画造形教室アトリエノビ

昨年度より日立市文化少年団に加盟させていただくこととなりました。

2014年に子ども対象の絵画や造形の教室として歩み始め、現在、小学生クラス、中高生向けの美術クラス、昨年からは大人クラスも展開しております。大人クラスでは、1年をかけて油絵、水彩画、版画、工芸など、多彩なジャンルのアートに親しんでいただくプログラムを企画しています。

子供たちには「ものづくり日本」を支える資質や美意識を育てるため、大人の方には、日常に自分と向き合う豊かな時間を届けるため、これからの時代にアートの持つ役割はますます重要になると確信しております。

地域に根ざしたアートの拠点として、表現の喜びを分かち合える場所を目指し、より一層教室を盛り上げてまいりたいと考えております。



絵画造形教室アトリエノビの案内

活動日・時間：ホームページをご覧ください。
https://atelier-nobi.com/entry/
活動場所：日立市鮎川町4－1－12　アトリエノビ教室
入団条件：小学生から高校生まで
設立年：平成26年（2014年）
会費（参加費）：ホームページをご覧ください。
https://atelier-nobi.com/entry/
申込方法：お電話またはホームページよりお申込みください。
https://atelier-nobi.com/contact/
申込先と問合せ先：〒316－0036　鮎川町4－1－12　TEL：43－5006

111 日々を詠む

《選・評　石井　まさ子》

補聴器を　付ければ世の中は
こんなにも　騒がしきかな　音の渦なり

田尻　和子

誰しも歳を重ねると、体のどこかしら故障が出てくる。作者は耳なのだ。補聴器のお世話になれば豈図らずや、日常のあらゆる音が届き、困惑し難儀しているのだろう。世の中は騒がしいと捉え〝音の渦なり〟と表現している作者。感受性豊かな人柄が読み取れる。

（令和7年市短歌大会1位入賞作品）

My 仕事 ㉖

音楽が人をつなぐ場所

Music&Little Bar Neon

庄司 典正さん（多賀町）

多賀町の一角にある小さなライブバー「Music&Little Bar Neon」。店主の庄司さんは、長年音楽を愛し続けてきた一人だ。店の扉を開けると、そこには音楽をきっかけに人が集まり、語り合い、笑顔が広がる空間がある。ライブやイベントを通して、地域に新しい交流の場を生み出している。そんな庄司さんにお話を伺った。

――音楽が好きな両親の影響でしょうね。子どもの頃から音楽が好きでピアノとドラムを習っていました。父はベンチャーズが大好きで、子どもだった私を連れてコンサートに行ったんですが、その時メンバーと写真を撮ってもらったんです。その時の体験はとても大きかったと思います。今尚はっきり覚えていますね。音楽に携わりながら学生時代にはバンドを組んだりもしていました。あの頃は仲間と音を出す時間が何よりの楽しみだったと思います。その後、国家資格である柔道整復師の資格を取得。東京では1日100人を診る程多忙な接骨院で働きました。現在は市内で予約制の接骨院を開院し、更に介護施設での機能訓練指導員の仕事もしています。とにかくじっとしているのが嫌なので何かしら動いている感じですね。

――人生は一度きりですから、自分の好きなことに関わっていたい。若い頃、水戸のライブハウスを中心に、イベントを企画する仕事もやっていました。お客が多くても少なくても良いので、とにかく好きなアーティストを招聘しましたね。30代の頃には自身もシンガーソングライターとして演奏活動を始めました。こう話すと2足3足も草鞋を履いていますね（笑）。生活の中心は接骨院での仕事でしたが、コロナ禍に見舞われて接骨院のお客様が激減しました。先を考えていた時に、知人が経営していた飲食店の居ぬき物件を引き継がないかという話が舞い込んだんです。人と関わる仕事が好きなので受けることにしたんです。開店して3年が過ぎたころ、現在の場所に移転。音楽をきっかけに人が集まれる場所を作りたいという考えをずっと持っていたこともあり、始めたのが、「Music&Little Bar Neon」です。決して広くはありませんが、小さな空間だからこそ人と人の距離が近くなる。そんな場所にしたいと思ったんです。

――プロのミュージシャンだけでなく、音楽が好きで演奏している人たちにも気軽に参加してもらえるような場にしたかった。ステージと客席の距離が近いので、演奏している人とお客さんが自然に会話をすることも多いですね。音楽って不思議なもので、初めて会った人同士でもすぐに打ち解けるんです。同じ曲を聴いたり、一緒に盛り上がったりするだけで、あっという間に距離が縮まる。音楽には人をつなぐ力があると感じましたね。そんな瞬間を見ると、この店を始めてよかったなと思います。

――実際、僕の師であるクマガイマコト先輩を始めこの店にはさまざまなミュージシャンが訪れてくれています。ウルフルズのギタリストだったウルフルケイスケさんが来てくれたこともありました。大きな会場ではなく、こうした小さな空間で演奏してもらえるのは本当に貴重な経験で、お客さんにとっても忘れられない時間になったと思います。テレビや大きなステージで見るアーティストも、こうした場所ではとても気さくで、音楽を純粋に楽しんでいる姿を見ることができるんです。そういう時間をお客さんと一緒に共有できるのも、この店の魅力だと思っています。

――地元で一生懸命音楽をやっている人たちもそうですが、これから音楽を始めようという人たちにも使ってもらいたいですね。音楽をもっと身近に感じてもらいたい。それが一番の思いです。これからもライブやイベントを続けながら、音楽を通して人が集まる場所をつくっていきたいですね。多賀町の小さなお店ですが、ここから新しい出会いやつながりが生まれていけばうれしいですね（笑）。

アーティストとの距離が近い店内
音響、照明設備も完備

店内には出演者のサインやセットリストが

ギターをつま弾けばアーティストの顔に

ライブ風景　一体となって盛り上がる店内（Instagramより）

ふるさと探訪パートⅡ－ ⑨⓪

神峰神社大祭礼・日立風流物・日立佐々羅について

川﨑　博文（日立市郷土博物館研究員）

神峰神社大祭礼は、「日立佐々羅（宮田・助川・会瀬）」の露払いのもと、お鉾を依り代としたご神幸（渡御）が執り行われ、「日立風流物（東町・北町・本町・西町）」が奉納される。この大祭礼は元禄8年（1695）水戸藩二代藩主徳川光圀公の命により、神峰神社が宮田、助川、会瀬の3ヶ村の総鎮守となって以来、氏子たちの手により300余年にわたり、絶えることなく伝統行事として継承されてきた。しかし、近年の交通量の激化や生活様式の多様化等の社会情勢の変化により、いにしえからの様式による大祭礼の開催が困難なものとなっている。そのため宮田、助川、会瀬の3地区間で協議し、その結果、平成3年（1991）の開催以降は7年ごとに執行することとし、これまで4回の祭礼を行った。令和8年（2026）5月の開催においては古来の様式を更に簡素化し、「役馬」（お供馬）に代え、輿でお鉾を渡御することとした。さらに、5月3日のお鉾迎えのご神幸と5月5日のお鉾送りの行事は3地区合同で実施するが、従来の5月4日の3地区合同のご神幸は、今回は各地区独自に実施する。宮田地区と助川地区は5月4日に、また、会瀬地区は5月5日にそれぞれ独自のご神幸を実施する。

助川佐々羅（令和元年5月3日）

日立風流物は、昭和20年（1945）の戦災によって焼失し、神峰神社も神殿をはじめその大半を焼失したことから祭りそのものの復活が危惧されたが、氏子たちの献身的な努力により、昭和33年1台だけ復元を果たし、21年ぶりに公開を行った。昭和34年に国指定重要民俗資料（北町の山車1台のみ。のちに重要有形民俗文化財と改められる）の指定を受けた。大祭礼の時だけ宮田地区の4町（東町、北町、本町、西町）が、日立風流物を曳き出し、奉納公開を行うが、その他にも大阪万博（昭和45年）での公開、茨城国体（昭和49年）の際には、天皇の天覧に供するなどし、昭和52年には、4台そろって国指定重要無形民俗文化財に指定され、その後もつくば万博（昭和60年）、京都遷都1200年祭（平成6年）での公開等各地の行事に参加し、名実ともに日本に誇れる民俗芸能として高く評価された。さらに平成21年にはユネスコ（国連教育科学文化機関）の無形文化遺産となり、国際的にもその価値が認められた。日立風流物は現在、神峰神社大祭礼をはじめ、毎年春の日立さくらまつり等での公開を通して大切に引き継がれている。

北町（表山）風流太閤記

北町（裏山）風流花咲爺

日立佐々羅は江戸時代から日立地方に伝わっている獅子舞であり、市内には宮田、助川、会瀬、成沢、諏訪、大久保、水木の7地区で行われている。このうち宮田、助川、会瀬の佐々羅は、神峰神社の御出社および大祭礼の際に渡御行列の露払いの役を務めるとともに、神前及び所定の場所において獅子舞を奉納する。

時代の変化とともに祭りの様式は少しずつ変容しているが、氏子たちは先人の意を受け継ぎ、日立市のまちおこしに資する祭り行事の継承のために、日々尽力している。

お問合せ　日立市民会館　催し物ご案内　☎0294-22-6481

第33回ひたちBigBand フェスティバル2026

5月17日（日）
開演13：00
（開場12：30）
入場料：全席指定 500円
会　場：日立市民会館

特撰落語会
三遊亭 小遊三/桂 宮治 二人会

4月26日（日）　開演14：00（開場13：30）
入場料：全席指定　4,400円
会　場：日立市民会館

郷土の歴史との出会い ④

— 綿引（わたひき） 逸雄（いつお） —

「遺跡と遺物」

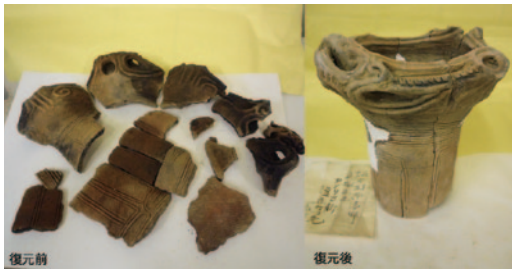
元大みか小学校長。社会科教諭。教育の場に実験考古学の成果を活用する活動(火起こし・土器づくり)等を行う。ふるさと文化少年団顧問。日立市郷土博物館研究員。

その場所が遺跡であるか否かは、人が使用した或いは作った痕跡の残る遺物（石器や土器）を見つけ、いつの時代のものかを判定することに始まります。昭和48年秋、博物館準備室の職員と高鈴台団地が造成される前の畑に土器拾いに行きました。坂道の手前に車を停めて、ビニール袋を片手に土器片を探しながら坂道を登って行き、1時間後に車まで戻ると、私たちの車が動かせないようにパトカーが停車してあり、警察官の職務質問を受けました。「何をしているの？」遺跡の証拠となる土器を拾っていることを説明しました。「それ、高く売れるの？」。私たち「(呆れて)・・・」。この頃、青少年の間では、シンナー遊びが流行っていました。ビニール袋を手に歩いているのを誰かが見たようで、シンナー遊びと間違えられました。後に、その畑は発掘調査が行われ、貴重な遺物が出土した「鹿野場遺跡」となりました。

大量の遺物

土偶４点

博物館には、市民の皆さんが子どもの頃に収集したという石器や土器が時折、寄贈されます。先年、多量の遺物が寄贈されました。戦後まもなくのこと、ある方が兵隊から帰ってきて、農業の傍ら、畑から出る土器や石器などを拾い集めました。その方が亡くなった後、集めた遺物を遺族の方が寄贈してくださいました。それらは遺跡ごとに箱に入れて整理されていました。発掘された資料を一次資料とするならば、採集された資料は二次資料となりますが、寄贈された資料の多くは出土状況が分からなくてもその遺跡から出土したということは明らかで、たいへん重要です。博物館では、収集した方のご苦労に敬意を表しながら、日立の原始古代を知る資料として写真や図にして整理しています。そのうち、展示される日が来るかと思われます。



南高野貝塚
（復元前と後）

採集された土器の中には復元できるものもありました。写真は、南高野町南高野貝塚の縄文土器（復元前・復元後）、折笠町八幡平遺跡の縄文土器などです。石器は９００点以上で、中には出土数の少ない独鈷石や石棒が含まれます。極めて珍しい土偶や土冠もあります。

戦後まもなくは、食糧増産のための開墾が盛んで、畑からは地中にあった遺物がたくさん拾えたようです。その後、機械での耕作が盛んになった時期にも深耕のため、たくさんの遺物が拾えましたが、現在は雑草に覆われた耕作放棄地が増えて地面は見えず、あまり拾えなくなりました。今は遺跡探しを目的に畑を訪ね歩くと、徘徊老人に間違われる時代・年齢になってしまいました。さびしい限りです。

八幡平遺跡

（公財）日立市民科学文化財団の催しご案内

ひたち国際大道芸2026

日立 5月9日(土) 会場 12:00～19:30
多賀 5月10日(日) 会場 11:00～17:15

日立・多賀会場

観覧無料

同時開催イベント
- フェイスペイント
- バルーンアート
- 写真撮影コーナー
- 大道芸体験コーナー
- 市民マルシェ

お問合せ　日立シビックセンター交流事業課　☎0294-24-7711

[新] パンポンを世界へ

プロフィール
塙　信幸(はなわ のぶゆき)
日立市生まれ　58才
日立グローバルライフ
ソリューションズ(株)在籍
平成7年パンポン始める
平成17年パンポン普及推進協議会に入会
令和4年同会の会長に就任

日立市民なら多くの方が知っているご当地スポーツのパンポン、今年で105年の佳節を迎えました。

数年前、とあるテレビ番組で、日立市の小学生はオリンピック競技にパンポンがあると思っていると放送されていました。これほど子供たちにも根差しているスポーツですから、文化と言っても過言ではないでしょう。

スポーツ協会からこの「ひたちの文化」への投稿の話があり、間違いなくパンポンは文化ですと言い、執筆させて頂くこととしました。

はじまり

はじまりは大正15年（1921年）頃からと言われ、創業間もない日立製作所の山手工場（現日立インダストリアルプロダクツ日立事業所）で始められました。当時、昼休みの娯楽としてはよくキャッチボールをしていたそうですが、建家の窓ガラスを割ることもあって禁止になり、何かできる運動はないかと生み出されたのがこのパンポンです。ミカンの空き箱を利用した板切れで、テニスボールを打ち合うようになったそうです。「パンと打って、ポンと弾む」ところから「パンポン」と名付けられました。その山手工場の入り口には「パンポン発祥地」と彫られた記念碑が残っています。

高尾さんの夢

昭和32年4月号「日立クラブ」誌に「パンポンと私の夢」と題した高尾直三郎さんの執筆が掲載されています。高尾さんと言えばパンポンの名付親、工場長で副社長でもあります。

その掲載の中に「そうして何年か後には都会はビルの屋上に、山の中の発電所ではダムの上場に、工場では舗装道路の上に、日本中から朗らかなパンポンの音が、多くの人々の単なる勝敗を度外視した親睦的な意味合いを込めてこだまするようになりたいものである。話が大きくなるが更に進んで海外出張を通じて全世界に流行させて見たい。・・・我々は製品の輸出と並んで運動競技も輸出してみたい。」といわれている。

高尾さんのパンポンへの思いは世界へと向いていた。まさにオリンピック競技にしたいとも思える。戦後十数年の執筆から考えると、「パンポンの親睦的な意味合い」が世界へ拡がることで平和へとつながればとの思いもあったのかとも伺えてきます。

日立シビックセンター音楽ホールの催し物
日立シビックセンターチケットカウンター　0294-24-7720

東京フィルの午後のコンサート。in 日立
2026年
6月28日(日)
15:00開演(14:00開場)
全席指定　S席：5,000円
A席：4,500円
B席：3,900円
高校生以下：2,500円
会場　日立シビックセンター音楽ホール

バギーコンサート
～森の仲間たちと音楽あそび～
2026年　**6月6日(土)**
大人1人:500円(要事前予約)
11:00開演(10:30開場)
会場　日立シビックセンター多用途ホール

多賀市民会館　開館20周年を迎えて

今年、多賀市民会館は多賀市民プラザ内への移設開館20周年という節目の年を迎えます。地域の皆さまに親しまれ、文化と交流の拠点として歩んできた20年。これまで多くの催しや活動がこの場所から生まれ、世代を超えて多くの人々が集い、笑顔と感動を分かち合ってきました。

昨年は、日立市民会館が開館60周年を迎え、記念事業が大盛況のうちに幕を閉じました。長年にわたり地域文化を支えてきたその歩みに続き、今年は多賀市民会館が新たな節目を迎え、地域の皆さまとともに20周年を祝うさまざまな記念事業を予定しています。

記念事業のひとつとして、常陸多賀にゆかりのあるフォークデュオ、京太朗と晴彦によるコンサートを開催します。温かくどこか懐かしいフォークの調べと心に響く歌声が、会場いっぱいに広がり、訪れる皆さまに特別なひとときをお届けします。

また、市内で活動する街角小劇場の劇団による20周年記念公演も予定しています。地域の舞台文化を支える演劇人たちが、この節目にふさわしい作品を披露し、観る人の心に残る舞台を創り上げます。身近な場所で本格的な舞台芸術を楽しめるのも、多賀市民会館ならではの魅力です。

そのほかにも、地域の文化活動や交流をさらに広げるさまざまな企画を計画しています。音楽や演劇をはじめ、多くの人が気軽に参加し楽しめる催しを通して、これまで支えてくださった地域の皆さまへの感謝をお伝えするとともに、次の時代へとつながる新しい文化の輪を広げていきます。

多賀市民会館はこれからも、地域に寄り添いながら文化と交流の場として歩み続けます。20周年という節目の一年が、皆さまにとって心に残る特別な年となるよう、多くのご来場を心よりお待ちしております。

京太朗と晴彦（第8回コンチェルトカフェより）

ひたちの文化のバックナンバー

財団HPにて
好評掲載中！

（http://www.civic.jp/hitachi/magazine）

編集後記

やわらかな日差しに、ようやく春の気配を感じるようになった。道ばたの草花や、ふと吹く風のぬくもりに、季節が確かに巡っていることを教えられる◆春は昔から出会いと始まりの季節ともいわれる。私たちの暮らしの中にも、振り返ればいくつもの春があった。あの頃は忙しくて気づかなかった春も、今は少しゆっくり味わえる気がしている■この編集後記を書いている私自身、窓の外の優しい陽気に気を取られ、つい手が止まりがちである。春は人の心だけでなく原稿の進み具合にも影響するようだ？

表紙の写真

満開の桜がアーチのように連なる春の平和通り。暖かい陽気に包まれたさくらまつりの会場を、絢爛な日立風流物の山車がゆっくりと動き出す。見上げる人々の笑顔と歓声が通りいっぱいに広がっていく。桜の花と伝統が出会う、日立の春を象徴する一瞬を写した一瞬。

撮影は本宮町在住の滑川浩康さん。令和８年ふるさと日立カレンダー応募作品からの一枚。

発行　公益財団法人日立市民科学文化財団
「ひたちの文化」編集委員会
〒317-0063　日立市若葉町1-5-8　日立市民会館内
TEL　0294-22-6481　FAX　0294-22-6633
HPアドレス　http://www.civic.jp
※ご意見・ご感想をお寄せください。